

年に一度、無縁仏の追悼法要が行われる新善光寺

ああ無情… 無縁仏が増えている

「無縁仏」といえば、死後ま
ったく身元がわからないとか、
天涯孤独の死者のことをイメ



ージするが、最近はずっと
違うようだ。身内がいても引
き取らないケースが増え、無
縁仏になってしまふのだ。

次の年は四十一体と減ったが、
その後は四十五体、五十七体、
七十九体と推移。今後、ます
ます増えそうな心配だ。

「ここ数年、引き取り手のな
いご遺体が本場に多くなった
と実感しています。身元がわ
かり親族の方に連絡をとって
も、そつちで処分してくださ
いと言われる。家族、親族の
絆がどんどん薄れていること
を感じずにはいられません」

無縁仏の内訳を見ると、圧
倒的に男性が多い。総体的に
はやはり高齢者が多いのだが、
三十代から五十代もそれなり
にいる。病院以外での死が多
く、孤独死、自殺、山や海で
の死亡、腐乱、白骨化したも
のなどさまざまだ。

創業一九四〇年、先代の時
代から札幌市の無縁仏を吊っ
てきた「極楽堂はなや」の中
島浩盟社長はそう語る。

札幌市の無縁仏は警察で身
元を洗い親族を探すが、不明
の場合、市に連絡がいき、市
から引き取りを委託されてい
る極楽堂にくる。極楽堂とす
ればまったくの赤字なのだが、
葬儀業という業態が確立して
いかなかった時代からやってき
たボランティア。それが続い
ている。納棺に必要な一式を
持つて病院や警察署に遺体を
引き取りに行く。その後、簡
単な葬儀を済ませ、里塚斎場
で火葬。遺骨は平岸霊園で三
年間は個別に保管される。そ
の間に身内などが引き取りに

くれば渡す。三年たっても引
き取り手がなければ、合葬供
養塚に納められるという。
毎年、お盆の時期には札幌
市社会福祉協議会が願主とな
り、札幌市中央区内の新善光
寺で、この一年間の無縁仏を
供養する「札幌市無縁物故者

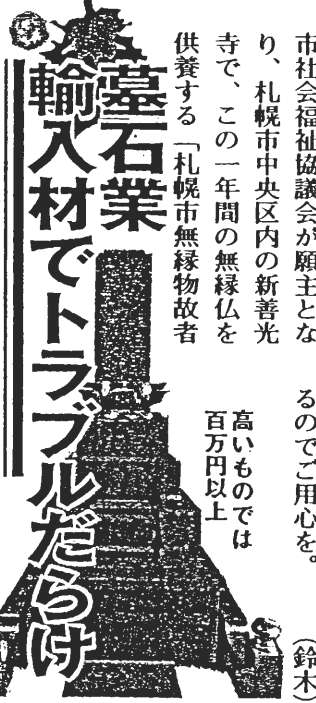
追悼法要」が行われている。
とくに男性諸氏。生前に家
族を大事にしていないうと、死
んでから捨てられることもあ
るのでご用心。(鈴木)

えているのか。全国の石材業
者八百社が加盟する日本石材
産業協会では「中国から墓石
が大量に輸入されるようにな
り、安さを売りにする業者が
増えたため」と解説する。

ここ数年、お墓の建立を巡
るトラブルが増している。
買って間もなく墓石が欠けた
り、ひび割れたりするとい
うのだ。その背景には中国産
の輸入墓石の急増がある。

墓石の価格は、どんなに安
くても十万円は下らない。ち
なみに北海道では「外さく費」
工事費込みで平均で九十一万
円(業界関係者)と、決して
安い買い物ではない。

中国産だから悪い墓石とい
うわけではないが、こうした
業者は本来なら捨てる部分ま
で輸入する。安く売るために
仕上げも雑で、磨く回数を減
らした墓石や中にはつや出し
の薬品を塗ったものもある。



こうした墓石は見た目では
分からないが表面は傷だらけ
そんな小さな傷に水分が入り
込み、凍結を繰り返すことに
よって大きなひび割れになる。
また中国産を国産と偽る悪
徳業者のうわさも絶えない。
日本石材産業協会は今年二